

2021 年度（令和 3 年）事業報告

「はじめに」

新型コロナウイルス感染症が社会全体に蔓延して3年目に入りました。変異株の出現も散見される中で、施設の児童を取り巻く環境はウィズコロナの状況へとシフトしております。

ワクチン接種も着実に進み、日常生活においても、感染予防対策を万全に行う中で児童も逞しく成長しております。

各学校や研修会等においては、パソコン・タブレットを活用した授業の展開、リモートと対面型の研修会議等、ハイブリット型の事業展開が浸透して参りました。

児童の養育状況においても、QOLの低下にならないよう、衣・食・住・教育の充実化に配慮し、ケアニーズの高い児童や自立支援・里親支援の必要な児童に対しては、より専門的な個別対応が提供できるよう努めて参りました。

各分園型小規模グループホーム「和愛」、「友愛」においても同様の支援に努めて参りました。

各事業報告については、別添資料をご参照下さい。

「舎の基本理念」

- ・福音宣教
- ・社会福祉
- ・国際親善

「支援方針」

- ・私たちはすべての子どもの権利を守ります
- ・私たちは子どもたちの「安心」と「安全」な生活を保障します
- ・私たちは法令を遵守し、公正かつ透明性のある施設運営を行います
- ・私たちは多様性のある子育て支援に努め地域社会に貢献します

1. 養育・療育推進事業

- * 現在、入所児童の約8割がネグレクトを含む何らかの被虐待児童であることに鑑み、児童及びその家族への対応、支援を主軸とした養育・療育の推進を図るとともに、児童ひとりひとりに向けて心理ケアなどの個別的対応や必要に応じた家族再統合に向けての話し合い等の家庭支援を実施しました。また自立支援コーディネーターと共に自立の多様性を模索し、其々の児童に応じた進路を検討し支援して参りました。

◆ 児童支援について

- (1) 個人の課題に沿った支援プログラムの立案、心理ケアの実施
2019年度より実習受け入れ施設として神戸大学と正式に提携
[神戸大学発達心理学科 メンタルフレンド（12名）による
心理療法の実施およびスーパービジョンの実施]（別紙 参照）
- (2) こども家庭センターとの連携（通所指導・心理判定・一時保護）
- (3) 音楽療法の実施（年2回・フィーリングアート、北村先生他）
※コロナ禍により中止
- (4) 学習進路指導における学習塾への修学、学習ボランティアの活用（小・中・高生対象）
- (5) 個別対応児童の家庭生活体験等の実施
- (6) 各学校・教育機関との連携を図るための交流会（稗田小学校・原田中学校）・個別カンファレンスの実施（コロナ感染状況により柔軟に対応）
- (7) 児童心理治療施設・児童自立支援施設・児童自立援助ホーム等および医療機関と連携し通所、相談事業を実施しました。
- (8) 意見箱などを活用した児童の権利擁護のための苦情解決
- (9) 食育を通して、食の重要性を理解させ、行事食や伝統文化にも触れる機会を提供しました。

◆ 自立支援について

- (1) 各児童における自立支援計画を担当職員と自立支援コーディネーターの連携・協議により具体的に策定し、年2回の見直しと検討を実施しました。
- (2) 調理実習（児童によるお楽しみ料理の会）を定期的を実施
高年齢児においては自立のための調理実習の機会を設けました。
- (3) 社会性を担保するためのアルバイト体験
就労を経験することによって経済的自立の重要性を担保しました
- (4) 各グループホームにおいて、自立に向けての年齢に応じた生活体験、自活訓練を実施しました。

2. 人材育成推進事業

* 自閉症スペクトラム障がい児や軽度の知的障がい児を含む入所児童への理解と生活支援や援助技術の向上を担保し、ケアニーズの高い児童への対応やスキルを向上させるためにも人材の育成を図りました。

- (1) 各研修会（全養・西日本・近畿）各児童養護施設職員研究協議会への参加と協力を行いました。（リモートによる各研修や会議等への参加）
- (2) 研修会後の施設内研修報告会の実施をしました。（フィードバック）
- (3) スキルアップ研修会への職員参加をしました。
- (4) 市民福祉大学主催の各研修会への参加等を致しました。
（リモートによる研修会を含む）
- (5) 施設内研修の充実化を図りました。（専門分野の講師による研修会等）
- (6) 子どもの権利擁護の学習会への参加を致しました。

3. 分園型小規模グループケアの継続実施 (別紙 参照)

グループホーム「和愛」の現状と課題

グループホーム「友愛」の現状と課題

4. 施設設備・機能強化事業

- * 新型コロナウイルス感染予防のための施設整備の充実化を図りました。
4階に感染症予防対策のため隔離静養室及びシャワールーム設置・改修整備を行いました。
- * 児童の生活環境をより向上させるためインターネット環境を整備し施設全体のメンテナンスを図りました。

5. 防犯・防災訓練の実施 (別紙 参照)
災害非常時等への対応・対策を図りました。

新型コロナウイルスや新型インフルエンザ等の感染症対策について児童の保健衛生に関する情報収集や具体的な予防対応に努めました。

2021 年度（令和 3 年） 本園 事業報告

* 令和 4 年 3 月現在の本園の状況

本園児童人数 24 名

社会人男児 2 名・高校生男児 3 名・高校生女児 6 名・中学生女児 3 名
小学生男児 6 名・小学生女児 3 名・幼児男児 1 名

本園担当職員数 13 名

主任・個別対応職員・男子ユニット職員 6 名・女子ユニット職員 6 名

- 新型コロナウイルス感染対策に対しての助成金を利用して、コロナ感染者静養室として、本園 4F の倉庫を改修し、隔離静養できる居室を設置致しました。
- コロナ禍で、自宅で過ごす時間が長くなり、虐待で保護された子ども達の一時保護委託要請が急増。出来る限りの受け入れを行いました。
- 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により、休校や外出禁止となり、そのストレスの緩和のために、子ども達が好きな食べ物を Uber Eats で注文したり、お寿司やピザ、ケンタッキーなどのテイクアウトで楽しみました。
- 制限が緩和されると、3～4 人の小単位で、密を避けた日帰り行事も出来る様になり実施しました。しあわせの村やネスタリゾート神戸、姫路セントラルパークなど、屋外で自然に触れる機会が増えました。
- 学年ごとの、発達段階に応じたさまざまな課題への取り組みや、養育の多機能化を図るため、親子関係の修復、里親支援なども視野に入れながら、子ども達に寄添って参りました。
- 引き続き、災害の脅威から子ども達の「命を守る」という事のために『備え』を行いました。

令和 4 年 6 月 1 日

主任指導員 小瀬 由香

2021年度（令和3年）グループホーム和愛 事業報告書

早いもので令和3年度が終わりました。学校行事が縮小したり、観覧制限があったりと、まだまだ制限のある生活をしています。舎では昨年度よりも行事が増え、徐々に元の暮らしに近づいています。

和愛の児童が1人、コロナウイルスに感染しました。クラスターになるかと思われましたが、子ども達、職員が感染対策を徹底していた結果、広がることなく収束し、感染児童も症状が酷くなる事なく、完治しました。

社会人が12月に退所しました。最初の2ヵ月は問題なく勤務し、暮らしていましたが、その後、仕事に行けなくなり、現在は退職となってしまいました。今後も手厚くアフターケアを継続していきます。また、4年度退所予定の社会人のアフターケアも課題です。家庭訪問は月1回程度になると思いますが、連絡を密に取れるようにし、不安や困り感を汲み取れるようにしておきたいです。

高1男子は休むことなく登校し、部活動にも意欲的に取り組んでいます。4年度の夏の大会を最後に現在所属している軟式野球部が硬式野球部と合併し、硬式野球部になることが決まりました。とても珍しいことで、本人も不安があると思いますが、最後まで頑張れるよう支援していきたいです。

小3男子はこの1年、グループホームの生活を通して、心も体もかなり成長したように感じます。自分の事ばかりでなく、相手を思いやる事が出来る様になりました。

新たに1月から小5男子がグループホームに移動し、生活する事になりました。妹と離れて生活するので、兄妹が不安にならぬよう、交流を継続していきます。

グループホームの良さを生かし、家庭的な体験を通して、子ども達をいい方向に導けるよう、これからも支援していきます。

令和4年6月1日

男子グループホーム和愛担当 平田 椋太郎

2021年度（令和3年）グループホーム友愛 事業報告書

2021年6月、高校を卒業し就職した児童が退所しました。8月には、2019年からひょうごこころの医療センターに入院をしていた児童が退院し、ホームでの生活を再開しました。3月には大学進学のため、高校3年生の児童が退所しました。それに伴い、4月から高校1年生になる児童がグループホームに移動し、新しい生活を始めたところです。

職員体制は、3名のグループホーム担当職員が週2回ずつ宿直勤務をし、週1回主任が宿直勤務をする形をとっていました。担当が固定している分、子ども達と安定した関係を築けているように感じます。子ども達の中でも、職員によって話したい話題や相談したい内容が違い、それぞれの職員の立場から子どもの話を聞いたり、意見を交換したりすることで、上手く役割分担ができていたように感じます。2月からは本園担当職員の退職で、2名のグループホーム担当職員が週2回ずつ、主任が週1回、本園担当職員が週2回ローテーションで宿直勤務に入る形をとりました。担当職員が勤務に入る回数が減った分、子ども達の精神的な安定や進路の話を進めるのには少し厳しさを感じました。

退所した児童に対しては、連絡を取り合うことで近況を知り、退所しても途切れない関係を目指しています。

入院していた児童に関しては、退院までに何度も外泊を重ね、外泊後には病院と振り返りを行い、職員との関係の構築やホームでの生活に慣れられるよう取り組んできました。8月の退院からは1度も入院せずにグループホームでの生活を送り、6月末の退所に向けて準備を進めています。

高校3年生への支援に関して、体調面で少し不安のある児童でしたが、学校とアルバイトを両立するという強い気持ちで、高校3年生の1年間も立派に両立し、指定校推薦を勝ち取り、立命館大学に合格しました。退所してもこまめに連絡を取り、相談できる環境を整えていく予定です。

高校1年生と高校2年生の児童は、学校への行き辛さを抱えながらもあまり休むことなく登校することができていました。嫌なことがある時には職員に話をしに来ることで、気持ちを切り替えることが少しずつできるようになってきました。グループホームの中でも嫌なことがあった時には相手に上手に気持ちを伝えたり、物理的な距離を取るために部屋で過ごしたりとトラブルに発展しないように対応できるようになってきており、成長を感じました。

一軒家の家庭的なグループホームでの生活で、身体面でも情緒面でも安定した生活を送れるように、今後も職員一同で子ども達をサポートしていきたいと思えます。

令和4年6月1日

グループホーム友愛担当職員：金・今市・山田

2021年度（令和3年） 防犯・防災報告書

目 的

施設入所している児童・職員の安全を向上させる為、防災・防火の訓練に努めることを目的とし、職員個々の防災・防火への意識の向上を行うものとする。

① 施設内避難訓練

令和3年4月～令和4年3月 毎月1回

目 的

4月	避難の際、それぞれの役割を決めなおす。役割の確認を行う。 避難場所・避難経路の確認を行う。
5月	非難時、避難先での諸注意・確認事項の説明
6月	施設内での出火の際の危険箇所の認識
7月	火災報知機について知ってもらう・防犯に関する講義を行う。
8月	コンセントからの自然発火について知識を深める。
9月	消火器の使い方と初期消火の方法を覚えてもらう
10月	煙の怖さについて理解を深める。
11月	台風や津波の怖さについて説明し避難の仕方を理解してもらう
12月	寒い時期に火災がなぜ起こりやすいのが原因を知ってもらう。
1月	地震の怖さと火災への関連性について理解する。
2月	家庭内で起こる火災について知ってもらう。
3月	総合防災訓練行い、総体的で実践的な訓練を行う。

訓練内容：避難訓練・消火訓練・避難誘導訓練及び点呼

② 施設内自主点検

令和3年4月～令和4年3月 毎週1回

③ 自衛総合防災訓練 令和4年3月 年1回

避難訓練・消火訓練・通報訓練

④ 消防用設備点検（有限会社カンバラ依頼）

令和3年6月・12月

⑤ 防犯に関する訓練 年1回（7月）

令和4年6月1日

防災・防犯担当：中林晃一

2021年度（令和3年）心理療法実施報告書

【対象児童】

対象となった子どもは18名（内訳は以下の通り）。

	身体的虐待	保護の怠慢・拒否	性的虐待	心理的虐待	ひきこもり	その他	計
就学前							
小学生		5		2			7
中学生		2	1				3
高校生等	5	2		1			8
計	5	9	1	3			18

※令和4年1月、2月はコロナ感染の広がりを受けてセラピーの実施を中止しました。

【個別セラピー】

基本的に1人、週1回、50分のセラピーを実施。年間で18名の児童に対し合計413回。

【グループセラピー】

3グループ、各グループ月1回、40～50分、セラピスト2名、担当ケアワーカー1名、メンタルフレンド1～2名が参加して、性教育、行動統制ワーク等のグループを実施。

小学低学年男女（4名）：7回

小学高学年男子（2名）：6回

中高校生男子（5名）：6回

合 計 19回

【メンタルフレンド】

神戸大学大学院生12名の実習生および臨床心理1名のボランティアによるメンタルケアを実施。

【その他】

心理療法士の職員会議およびケース検討会への参加：45回

スーパービジョン（助言および指導）の実施：421回

通所・通院（精神科）への付き添いと他機関の心理士および精神科医との連携：13回

生活場面面接：75回を行う。

大学院実習生の指導：271回を行う。

卒園生へのアフターケア：123回を行う。

職員へのストレスチェック：2021年7月12日～7月30日の間で13名実施。

令和4年6月1日
愛神愛隣舎 心理室 本田浩子